

第181回 東南アジア諸国の独立

1 戦後の東南アジア諸国

- ・()を除く東南アジア地域は、ヨーロッパ諸国の植民地であった。
→第二次世界大戦後、多くの国が独立を果たしていった。

☆ () (1945～2023年現在)

都…ジャカルタ

◆ () (在任 1945～1967年)

- ・1945年、建国五原則を発表し、日本の敗戦直後には独立を宣言した。
→しかし () はこれを認めず独立戦争となった。
→1949年、ハーグ協定により独立が承認された。



スカルノ

高らかに独立を宣言するスカルノ。ちなみにフルネームである。戦前からオランダに対する独立運動を行っていた。第164回を見よう。

☆ () (1946～2023年現在)

都…マニラ

- ・第二次世界大戦中は、フクバラハップという組織が抗日運動を行った。
→1946年、アメリカから独立し、1951年、米比相互防衛条約を結んだ。

☆ () (1953～1970年、1992～2023年現在)

都…プノンペン

◆ () (在位 1941～1955年退位、1993～2004年)

- ・1953年、フランスから正式に独立を果たした。



シハヌーク

1955年に王位を譲り、以後は首相として政治を行った。波乱万丈な人生である。

☆ () (1953～1975年国名変更～2023年現在)

- ・1953年、フランスから正式に独立したが、内戦が続いた。
→ラオス愛国戦線が政権を樹立し、1975年、ラオス人民民主共和国となった。

☆ () (1948～1989年国名変更～2023年現在)

- ・1948年、イギリスから独立した。
・1962年、ネ=ウィンがクーデタで政権をにぎり、社会主義化を進めた。



ネ=ウィン

アウンサン将軍の部下で、やはり軍人であった。経済政策は大失敗。

☆ () (1957～1963年国名変更～2023年現在)

- ・1957年、イギリスの自治領として独立した。
→1963年、周辺地域と合併し、() が成立した。
→1965年、中国系住民が多い () が分離・独立した。

- ・1967年、東南アジアの5カ国(インドネシア、フィリピン、シンガポール、マレーシア、タイ)により、() が結成された。

2 第二次世界大戦後のベトナム



ホー=チ=ミン

ベトナム独立の父。生涯をベトナムの解放と独立に捧げた人物である。清廉潔白な人柄で、賄賂などは一切受け取らなかった。

- ・第二次世界大戦中、フランス領インドシナは、日本の占領下に置かれた。
→1941年、()により()
が結成され、日本、戦後はフランスに対する独立運動を行った。

- ☆ () (北ベトナム) (1945~1976年統一・国名変更)
都…ハノイ ※現在もベトナムの首都
- ◆ () (在任 1945~1969年)
 - ・1945年、ホー=チ=ミンはハノイで独立を宣言したが、独立を認めないフランスとの間に、1946年、()がはじまった。

- ☆ () (1949~1955年)
 - ・フランスは、阮朝最後の皇帝 () を支援して、フランス連合内の1国としてベトナム国を成立させた。
 - ・1954年、フランス軍の根拠地である () 要塞が陥落した。
→ジュネーヴ会議で () が調印され、()
を南北ベトナムの軍事境界線とした。



バオダイ

第二次世界大戦前は阮朝の皇帝であった。ゴ=ディン=ジエムに追放された後は、フランスでのんびり暮らした。



ディエンビエンフー陥落

ベトナムは、人海戦術でトンネルを掘り、密かに要塞を包囲し、陥落させた。1万人以上のフランス兵が捕虜となった。

3 インドシナ戦争後のベトナム



ゴ=ディン=ジエム

キリスト教徒であり、南ベトナムの独裁者となったが、仏教徒などの猛反発を受けた。

- ・ジュネーヴ休戦協定では南北統一選挙が行われる予定だったが、共産主義勢力の拡大を嫌う () はこれに介入した。
- ・1954年には、反共軍事同盟である () がアメリカを中心に結成された。

- ☆ () (南ベトナム) (1955~1975年)
都… () ※現在のホーチミン
- ・ () は、アメリカの支援によりバオ=ダイを追放してベトナム共和国の初代大統領となったが、政治腐敗により混乱が続いた。

- ・南ベトナムを解放するため () が南ベトナム国内で結成され、北ベトナムの支援でゲリラ活動を行った。
- ・1963年にゴ=ディン=ジエム政権がクーデタで倒れると、アメリカの南ベトナムへの軍事介入が強まっていった。



抗議の焼身自殺を行う僧侶